

「吐き気止め」や「下痢止め」は是非必要なの？

子供の嘔吐や下痢は年中行事のようなものです。最近では「**ロタウィルス**」による急性胃腸炎が流行しています。親御さんの中には、「吐き気止め」や「下痢止め」は悪いものを排出しているのでは止めない方が良いのではとおっしゃる人もいます。解熱剤の使用も同様ですが、症状の程度によりお薬が必要かどうかを判断します。

何度も嘔吐や下痢をする事により、脱水症状が進行すると危険な状態になります。 **半日ほどおしっこが出ない、口がカラカラ状態、まぶたがくぼんでいるなどは危険信号です。** 体重の減少を参考にしながら、時には点滴をする場合もあります。



乳幼児の嘔吐に対しては、一般的に「**ナウゼリン坐薬**」が頻用されていますが、稀に錐体外路症状（手のふるえやふらつきなど）の副作用があります。そのため当院では漢方薬「**五苓散（ごれいさん）**」の坐薬を主に使っています。「五苓散」は本来飲む漢方薬ですが、オリジナルの坐薬を薬局で作ってもらっています。お湯に溶かして浣腸の要領で注腸する病院もあります。

「五苓散」は胃や腸に停滞している体液をバランス良く体中に分散させる働きがあり、嘔吐にも下痢にも有効です。いずれにしても軽い嘔吐は、「**吐いたら飲ますな**」の合言葉で、少なくとも1時間ぐらいは絶食

にして、**徐々に少量のイオン飲料水**や麦茶、湯冷ましを与え、そして大丈夫なら消化の良いおかゆやうどんなどの炭水化物を与えていきます。**一般的に嘔吐は半日で良くなりますのであわてない事です。**

「下痢止め」には ①乳酸菌やビフィズス菌など善玉菌で腸の働きを整える整腸剤（ミヤBM、ピオフェルミンなど）、②腸の粘膜を保護する薬（タンナルビン）、また③過剰に動いている腸の活動を抑える薬（ロペミン、ロペラニール）があります。身体に悪い物を停滞させてしまうという観点から、腸の運動を抑えてしまうのは危険という考えもありますが、脱水を予防するためには短期間での服薬は必要と思います。軽い軟便程度は整腸剤で十分でしょう。

母乳児はそのまま母乳を続けさせ、人工栄養児は乳糖不耐症となるため、ミルクを1/2から1/3に薄めたり、乳糖フリーの治療乳（ラクトレス、ノンラクトなど）を奨めています。（但し、これらは必要ないという報告もあります）

当院では長引く下痢には漢方薬の「**人参湯（にんじんとう）**」も処方しています。人参湯は、おなかを温めて胃腸の働きを丈夫にする薬効があり安全です。

さて下痢には「良性の下痢」と「悪性の下痢」があると思います。「良性の下痢」は、普段と変わらず元気でニコニコしている状態です。これは余り心配ありません。一方、「悪性の下痢」は、細菌性の下痢が多く、腹痛が強く、ぐったりしていかにも重篤な印象があります。お子様が、元気がいいのか元気がないのかで病院の受診を考えて下さい。（たまなは）